

Day6 活動報告

人文社会科学部 2 年

8:00 ホテルロビーに集合

日本語ガイドであるイヴ・エンダンさんとインドネシア語ガイドのサンティーさんと合流

。

8:10 移動

車での移動中、ジョクジャカルタは 1755 年にマタラム王国がジョクジャカルタとスラカルタの二つに分裂したところから始まったという歴史や、京都と姉妹都市を結んでいるなどを教えてもらう。

またイヴはお母さん、エンダンは女性を示すなど名前の由来を教えてください、エンダさんは母、サンティーさんは姉に当てはまるといった提案から交流をさらに深めた。



8:40 プランバナシ寺院群到着

破壊の神であるシヴァ、創造の神であるブラフマ、守護の神であるミシュヌの寺院が並ぶ。中央は最も偉いとされるシヴァ、左がブラフマ、右にミシュヌが祀られ、それぞれの寺院の前にはシヴァはナンディー(：水牛)、ブラフマはハンサ(：白鳥)、ヴィシュヌはガルダ(：ワシ)といった三神の乗り物を祀る寺院が鎮座していた。

シヴァを祀る寺院は4部屋で構成され、シヴァを祀る部屋の周りの部屋にはシヴァの教師であるアングスティア、息子であり学問の神様でもあるガネーシャ、妻のドゥルガが祀られていた。

装飾にはカラ・マカラ(魔除け)、キナラ・キナリ(夫婦のシンボル)など対となる形のものが用いられていた。またシヴァが収められた建物を取り囲むように善と悪の戦いを描いた物語のレリーフやリング(男性の象徴)があり、絵物語として現在まで残っているとわかった。





10:00 プランバナン寺院探索終了

10:10 ルンブン寺院到着
 ルンブンとはお米を置く場所という意味を持つ。ジャワのお寺は90%に名前がついてないため、発見者が名前をつけていることを知った。

アプサラ・アプサリと呼ばれる対になった男性と女性のレリーフが存在した。



10:20 移動

道中にはわたの木やマンゴーの木があった。 わたは木の一带に存在し、塊をつくっていた。
。



10:25 ブブラ寺院到着

ストゥーパと呼ばれる装飾が存在した。

プラオサンにあるリングと非常に形が似ていた。仏像は置かれておらず、内部は空っぽになっていた。



10:30 セヴ寺院到着

642 番目の世界遺産である。 グバラと呼ばれる守神がいる。これはクラトンにも存在しているものと同じであると教え

てもらった。

数部屋存在し、年一回のお祭りの際に僧侶の休憩所として使用されていたため、見た目以上に内部が広く、儀式の規模の大きさが伺えた。



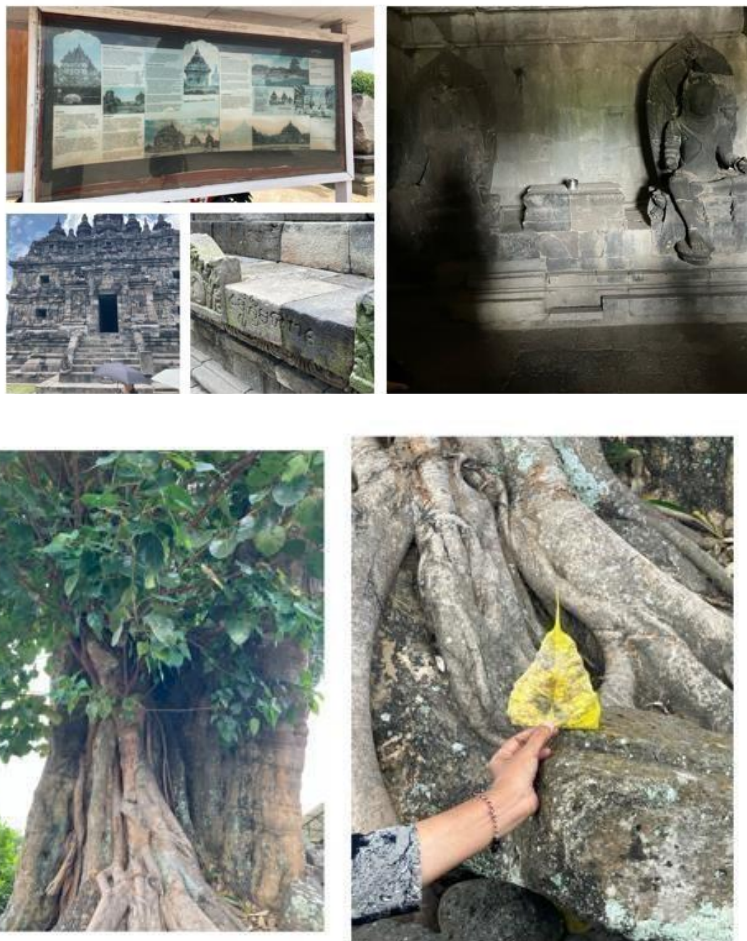
11:00 プランバナナ寺院群探索終了

11:02 車移動により北プラオサン寺院に到着ヒンドゥー教を信仰する国の王様であったラカイ・ピカタンが、仏教を信仰する国から嫁いできた王女のために建造した寺院。

土足禁止であり、裸足もしくは靴下の状態で建物内部を散策した。

建物内には3部屋あったが、全て同じ構造であり、正面には釈迦三尊(左に観音、中央にお釈迦様、右に文殊)が置かれていた。しかし3部屋全てお釈迦様の仏像のみが消失していた。また壁左右にはカラ・マカラが存在した。

敷地内には菩提樹が植えられ、特徴的な葉の形はストゥーパと同じ形であることを教えてもらった。



11:30 南プラオサン寺院に徒歩で到着外側から覗く形で見学した。

北は奥さん専用だが、南は奥さんの家族や兄弟もしくは一般人のために建設されたことを教えてもらった。

11:40 プラオサン寺院探索終了

12:00 昼食

ABHAYAGIRI - Venue and Dining

山の上にあり、街やプランバナン寺院を見渡せることができる場所で昼食をとった。

ジャワカレーやナシゴレンなど地域における代表的な料理を食べることができた。



13:40 バラン寺院到着

ヒンドゥー教の魔除けの名前でありバランとはカラ・マカラを意味する。

最も綺麗な形の魔除けがあることで有名であり、顔には他の寺院と異なり、舌が存在している。舌は悪いことをストップするためにあることを教えてもらった。

近隣では発見されたストゥパにより、発掘調査が進んでいることも垣間見れた。



14:10 バラン寺院探索終了

14:30 ラトゥ・ボコ寺院到着

入場ゲートを過ぎると遠くにはメラピ山が見えた。

石畳は左右にオリジナルのものが見えるようになっており、観光客による衝撃を防ぐことで、石の摩耗を防ごうとしているのではないかと思った。

広大な土地には沐浴場、火葬場、展望台、井戸、儀式用の建物などが存在し、当時の生活を伺うことができた。

建造物は全て安山岩(火山噴火により作られる)が用いられ、生活と火山は密接に関係していたことがわかった。



16:00 ラトゥポコ寺院探索終了

16:40 kopi Luwak Mataram 到着

入り口には3匹のジャコウネコ(インドネシア語でコピ・ルワック:イタチ科)がいた。店の中に入ると、日本語ペラペラの女性店主に案内してもらいジャコウネコのフンを乾燥させたものの皮を剥き、中の実を取り出す作業を体験させてもらった。

一緒に作業した女性の店員の中には、他にも日本語を話せる人もいて、日本語と英語を交えて会話をした。また高温で焙煎する様子も見学し、日本でジャコウネココーヒーが紹介された動画を鑑賞しつつ、ジャコウネココーヒーをご馳走してもらった。 キャッサバチップスやコーヒー豆が付け合わせとして出された。さらに茶色の角砂糖があり、先に口に含み、コーヒーを飲むことで苦味が中和されるなど、日本では行う人が少な



いであろう飲み方を紹介してもらった。

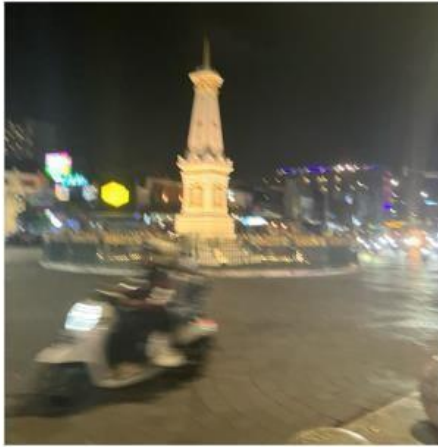
17:30 Kopi Luwak Mataram 出発

18:00 ホテル到着

18:30 夕食

ホテル近くのに Kebon Ndalem Coffee & Eatery 徒歩で移動して夕食を食べた。

3 階建ての建物で 1 階にはお土産ショップが併設されていた。Tugu Jogja と呼ばれるモニュメントが近くにあったため、店内は観光客で賑わっているように感じた。



19:30 ホテル到着&解散